

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と対策

学校名	清里町立清里中学校																		
(1) 生徒に関する 調査の分析	<p>【教科に関する調査】 全国・全道と本校の比較</p> <table border="1" data-bbox="395 472 1102 667"> <thead> <tr> <th></th> <th>国 語</th> <th>数 学</th> <th>英 語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 国</td> <td>72.8</td> <td>59.8</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>全 道</td> <td>72.0</td> <td>58.0</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>清里中</td> <td>やや低い</td> <td>ほぼ同じ</td> <td>ほぼ同じ</td> </tr> </tbody> </table>				国 語	数 学	英 語	全 国	72.8	59.8	56.0	全 道	72.0	58.0	54.0	清里中	やや低い	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	国 語	数 学	英 語																
全 国	72.8	59.8	56.0																
全 道	72.0	58.0	54.0																
清里中	やや低い	ほぼ同じ	ほぼ同じ																
	<p>【±5.1=高い・低い ±5.0～±2.6=やや高い・やや低い ±2.5=ほぼ同じ】 国語…全国平均よりやや低い傾向。 数学…全国平均とほぼ同じ傾向。 英語…全国平均とほぼ同じ傾向。</p>																		
教科に関する調査	<p>○国語 平均正答率 自校 やや低い 北海道72.0 全国72.8</p>																		
	<p>・読む能力、言語についての知識・理解・技能の正答率が低かった。その他、国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力に関しても正答率の低い問題もあった。全体的には、文章の内容を正確に理解する、話の内容をもとに自分の考えを持つという点に課題があると見られる。</p>																		
	<p>【改善】</p>																		
	<p>・国語の力を付けさせるには、語彙力を高めることが有効である。今後も朝読書の取り組みを充実させることと、図書コーナーの充実、図書の貸し出し数を増やしていきたい。 ・放課後、学習サポートを通じて、チャレンジテスト等、多くの問題に慣れさせる。</p>																		
	<p>○数学 平均正答率 自校 ほぼ同じ 北海道58.0 全国59.8</p>																		
	<p>・数学的な見方や考え方に関する問題の正答率が低かった。 数値をもとに様々な事象を理解して説明する力や、結論を導くための新たな事柄を見つけ出すなどの力を高める必要があると考えられる。</p>																		
	<p>【改善】</p>																		
	<p>・少人数習熟度別授業が成果を上げているので、今後も継続していきたいと考える。 また、家庭学習の定着、放課後の補習的な学習も効果が表れてきている。下位層の底上げを今後も図っていく。</p>																		
	<p>○英語 平均正答率 自校 ほぼ同じ 北海道54.0 全国56.0</p>																		
	<p>・外国語理解の能力に関する問題の正答率が低かった。また、文章を書くという問</p>																		

<p>質問紙調査</p>	<p>題の正答率が低かった。</p> <p>音声を聞いたり文章を読んだりして内容を理解し、適切に応じる力を高めていく必要がある。適切に応じるために、文章を書く力も高めていかなければならない。</p> <p>(話すこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は低かった。特に相手から提示されたものを理解し、正確にやりとりをするという問題の正答率が低かった。 <p>相手の話を正確に理解する力、そのことに関連した内容を答える力を高めていかなければならない。</p> <p>【改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から少人数指導を取り入れ、より細やかな指導を心掛けている。話すことに課題があるので、1時間の授業の中で一人一人が多く英語を話すことができるよう授業改善を行っていく。 <p>生徒質問紙 【課題と考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の3年生については、「将来の夢」が明確であったり、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」経験をしている生徒が多い反面、「難しいことに失敗を恐れず挑戦する」生徒は全国と比較し少ない傾向にある。自分のやりたいことに積極的にチャレンジできるよう様々な働きかけ、環境を整えていきたい。 ・基本的な生活習慣は身につけている。朝食を毎日食べる割合も高い。朝食は学校生活を送る上でエネルギーの源ということを理解させ、家庭でも「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くよう協力をお願いする。 ・「いじめはどんな理由があってもいけない事だと思う」生徒が100%に達した。今後も学級活動・学年を越えての縦割り活動・道徳の授業等を通して望ましい集団生活の在り方を指導していく。 ・学習習慣は身につけており、宿題・家庭学習にはほぼ全員が取り組んでいる。与えられたことは真面目に取り組もうとしている。毎日1時間程度の勉強は出来ているが、2時間以上になると割合が大きく減る。進路指導を通じて、家庭学習の時間を増やせるよう指導していく。
<p>(2) 学力向上・生活習慣改善の取り組み</p>	<p>【学力向上の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底（休み時間中に授業準備・チャイム着席の徹底 等） ・ITC機器の活用（実物投影機・タブレット 等） ・朝読書を行うことで、落ち着いた1日をスタートさせる ○学習過程の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で「考える時間・意見を交流し合う時間」の確保 ・課題とまとめ、振り返りを意識した授業実践 ・地域人材の活用（コミュニティスクールの実践） ○指導方法の工夫改善

	<ul style="list-style-type: none">・少人数指導の充実による下位層の底上げ（数学科の習熟度別指導・英語科のTT）・長期休業・放課後の学習会、個別の補習の充実 <p>○家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の充実・読書の奨励 <p>【生活習慣改善の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none">○本校の教育スローガン「凡事徹底」を様々な場面で浸透させる。○生活リズムチェックシートの活用（自分の生活習慣を見直す 年4回実施）○生徒会活動の充実（自ら進んで行動できる生徒の育成）○道徳の授業の充実（本校生徒の課題解決に向けた授業）○一人一人が自分の考え、意見を発表できる場の設定
--	---